#### 第1期計画の課題 基本理念 第二期計画策定にあたっての課題の検証と整理 ● 自然動態減(死亡数が出生数を上回る)となり、少子高齢化が進む。 全ての子どもが人と ● ファミリー層の転入とその出産により、計画期間の5年間は児童人口(0~5歳児)は、 して尊ばれ、健やか ①遊びの機会の減少 に成長できるよう, ほぼ横ばいかやや減少傾向となり、子どもの数は急激に減ることはないと見込まれる。 す それぞれの状況に応 ● 人口構成比は、生産年齢人口が漸減する。 じた適切な環境の中 ベ ● 外国人人口が増えている(H27 6,733人⇒H30 8,937人, 32.7%増)。 で適切な支援を受け, て 子育での孤立化 育てられる必要があ 少子高齢化の進行 ● 親子で一緒に過ごす子育て仲間が「いない」人がさらに増えている。 ります。 **の** $(H25 \quad 16.9\% \Rightarrow H30 \quad 22.4\%)$ . 子 ● お子さんを見てもらえる親族・知人が「いずれもいない」人が増えている 「子どもの最善の利 ②地域の重要性 益| は社会全体の願 $(H25 \ 11.4\% \Rightarrow H30 \ 17.4\%)$ . いです。柏市子ど ŧ ● 近隣に頼れる親族がいない、転入して間もないなどにより近隣とのつながりが希薄な も・子育て会議でも, の 人が一定数いることがうかがえる。 「『子どもの幸せと は何なのか』が基 幸 本」といった意見に 世 ● 家庭や子ども自身各々の状況により、きめ細かい支援や地域とのつながりづくりがで 共感が集まりました。 を きる環境整備が求められている。 ح 支援者の「つなが ③子育ての孤立化 子育での不安や負担 • こども発達センターへの相談問い合わせ数 626件 (H30) り」は各主体を力づ も • ひとり親 3,487人 (H30児童扶養手当受給児童数。18歳未満人口に占める割合は けるとともに、街や 社会全体の力づけと 外国籍の0~5歳児数 426人(R1.5.1現在。0~5歳人口に占める割合は約 なります。支援者だ 核家族化 2.0%) けでなく, すべての 守 社会の構成員が各々 地域のつながりの希薄化 6) の役割を果たすこと ● 深刻な虐待事件が各地で発生し、虐待防止や適切な対応が喫緊の課題である。 も大切です。 (柏市家庭児童相談のうち児童虐待相談件数 711件(H30)) 子ども自身や子どもの家庭 て 4子育でに係る不安や ● 子育てを主に行っているのは「父母ともに」が増えている(H25 46% ⇒ H30 54.0%)。 環境への理解 負担 る 子どもの権利を守り、 また、子育て支援の施設や事業の利用も増えており(平日の定期的な教育・保育事 命を守るという使命 業の利用H25 53.2%⇒H30 60.4%), 母親以外が子育てに関わることが増えている。 がまちに課されてい ま ます。「孤立させず、 みんなで子どもを育 てよう | という姿勢 を表します。 ● 共働きの増加の割合が加速し、保育需要は依然増加している。 か 5保育需要の増大 保育需要の増大 (共働き家庭H25 38.6% ⇒ H30 59.6%) ● 保育の確保に取り組んでいる(H27~31の4月1日現在の待機児童は0人)が、入園の時 こうした精神を計画 わ 共働き家庭の増加 として柏のまちづく 期や園の選択は希望どおりにいかない状況である。 りに生かしていきま 6乳幼児期の教育・保育の ● 令和元年10月からの教育・保育の無償化により、子育て世代の経済的負担の軽減は見 乳幼児期の教育・保育の す。 質の確保・向上 質の確保・向上 込まれるものの、教育・保育の質を求める声は大きい。

子育ては,子ども・保

護者が孤立せず、まず

家から一歩を踏み出す

ことが重要です。その

一歩を後押しし、社会

に温かく迎え入れる環

境づくりが必要です。

保護者だけでなく家

族・親族や施設, 街の

多くの人が子育てに関

わり、関わる人同士が

つながって子育てを共

有することが大切です。

また、生涯にわたる人

格形成の基礎が培われ

る乳幼児期にふさわし

い教育・保育の提供が/

様々な状況の中で一歩

を踏み出すことが難し

い方も多くいます。す

べての子どもが安心で

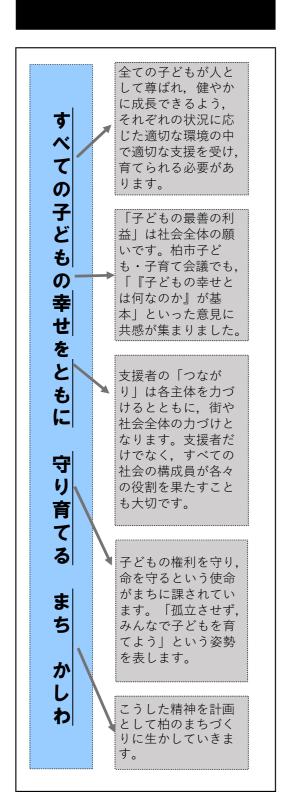
きる環境で健やかに育

つための支援が必要で

重要です。

す。





施策展開の方向

# 1 親子が社会へつながる一歩を踏み出せる環境をつくる

子育て家庭が社会へ踏み出すために、地域や支援につながれる情報提供や相談体制を整えます。また、親子のまちへのデビューの場や保護者自身が親として育つ場を、地域とともに提供していきます。

## 2 子ども一人ひとりを、多くの 目と手で育てる支援体制や地 域環境をつくる

子どもを中心にして、子育てに多くの人が関わることで親の不安や 負担を軽減するとともに、教育・ 保育が安定的に供給されるよう 体制を整えます。また、保育士の 処遇改善や専門性の向上などに より、教育・保育の質を担保しま す。

# 3 一人ひとりが大切に育てられるよう、支援体制を整える

きめ細かい支援によって、子育 ての不安や負担の軽減を図ると ともに、配慮を要する子ども・子 育て家庭が安定した生活を送れ るよう、支援します。 施策

### ■まず一歩ふみだしてほしい

- 1-1 子育ち・親育ちの場に関すること (拠点事業などの地域資源や地域活動の促進, 意識啓発等)
- 1-2 情報提供・相談体制に関すること (利用者支援や各種相談窓口,各種媒体による情報提供等)

### ■いろいろな人と子育てを共有しよう

- 2-1 ネットワークづくりに関すること (支援者同士の連携や地域と行政の連携,人材育成等)
- 2-2 教育・保育の計画的整備に関すること
- 2-3 教育・保育の質の向上に関すること (研修や指導監査, 幼保こ小連携等)
- 2-4 子育ての負担軽減に関すること (一時的な預かりや経済的支援等)
- 2-5 ワーク・ライフ・バランスに関すること 【男女共同参画推進計画】

### ■一人ひとりを大切に守り育てよう

- 3-1 児童虐待防止に関すること (予防支援, 子ども家庭総合支援拠点, 児童相談所設置等)
- 3-2 障害児支援に関すること 【ノーマライゼーションかしわプラン】
- 3-3 ひとり親支援に関すること【ひとり親家庭等自立促進計画】
- 3-4 その他さまざまな状況・環境にある児童への支援に関すること 【外国につながる子どもなどへの支援】